

## 第1分科会 『地域や公共図書館との連携』

養父市立伊佐小学校 片芝 教子

### 1 はじめに

本校は、全校生95名の小規模校である。校舎東側には、コウノトリの放鳥拠点が設置され、子どもたちは望遠鏡を使いながら観察を続けている。毎年、巣立つひなに名前をつけさせていただいており、子どもたちにとってコウノトリは自慢の鳥であり、伊佐地区のシンボルとなっている。地域の方々は学校教育に積極的に関わってくださり、図書ボランティアの方々も長年にわたり子どもたちの健やかな成長に力を注いでくださっている。

### 2 具体的な取組

#### (1) 図書ボランティアの取組

##### ①読み聞かせ（保護者、地域の方7名）

- ・毎月第2水曜日 朝8：10～8：30
- ・各教室で読み聞かせをしてくださる。子どもたちはとても楽しみにしており、読み聞かせ前後に語ってくださるお話も聞き入っている。
- ・ボランティアの方々も季節や学年にあった本、話題の本を選んで来てくださっている。
- ・本校の読み聞かせは10年以上続いており、発足当初からボランティアを続けてくださっている方もある。地区文化祭では絵本をスクリーンに写し出し、朗読を披露して下さっている。



##### ②図書ボランティア ブックママ（保護者、地域の方6名）

- ・月1回 水曜日 午前中
- ・図書室の環境整備（掲示物の作成・貼り替えや本の修理）、新刊の分類シール貼り等
- ・本年度は、他校の保護者の方が活動の様子を視察に来られた。



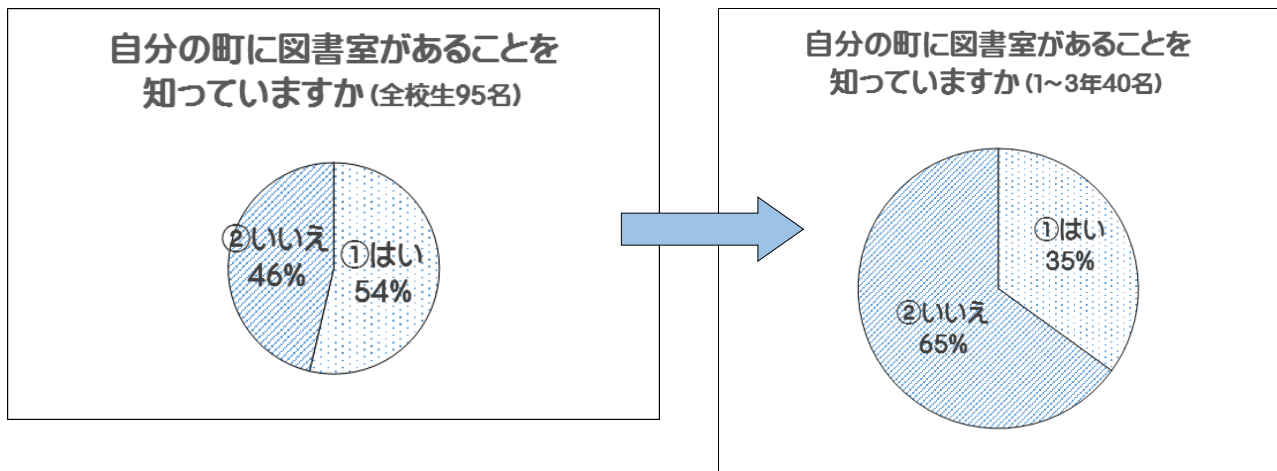
#### (2) 公共図書館との連携

##### ①実態

養父市内には図書館がなく、各町とも公民館に図書室が設置されている。子どもたちにも読みやすい絵本や物語類も揃っているが、本校児童にとっては、子どもだけで行け

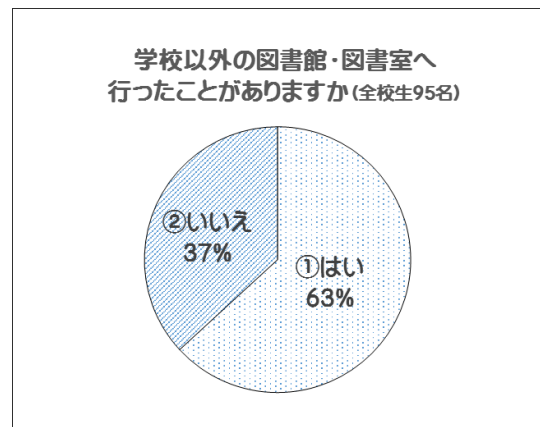
る距離ではなく、その存在すら知らないのでは…? と思い、全校生対象に図書館利用に関するアンケート調査を実施した。

<2017年6月実施 対象：伊佐小学校児童95名>



<アンケート結果より>

- ・本を借りることは、ほとんどの児童が好きと答え、学校図書室を利用している。
- ・低学年においては、市の図書室の存在を知らない児童が多い。
- ・高学年については、6割の児童が図書室の存在を知っており、実際に学校以外の図書室や図書館を利用した経験のある児童もいる。



## ② 地域にある図書室の紹介

児童の実態をもとに、まず地域にある公共の図書室とその活用方法を知らせていこうと考え、公民館図書室の方の協力を得て、設置場所や本の紹介、本の借り方や返し方を動画で撮影し、子どもたちに紹介した。

市内の四つの図書室は連携をしており、借りた本はどこで返しても良いこと、本の予約ができ、希望する図書室まで届けてくださること、共通のスタンプラリーなどイベントを企画しておられることなども、合わせて紹介した。

## 3 おわりに

「学校に来て活動していると子どもたちの様子がわかって楽しい」というブックママさん達の声。作業中であっても、休み時間に図書室へやってくる児童とも積極的に関わってくださっている。今回、町の図書室利用について調べると、低学年では図書室の存在を知らない児童が多いことがわかった。地域にある公共図書室を生かす為には、本校教諭や保護者への啓発も必要だと感じている。本市では養父市が輩出した儒学者・池田草庵先生の教えにちなんで、第2・4水曜日を「そうあんくんの日」とし、ノーメディア・読書・自主学习をすすめている。この日の活用も含め、さまざまな角度から本に親しむ機会を増やし、立ち止まって読み、じっくり考える機会を与えてくれる本の良さを広げていきたい。

## 子どもたちと本とのよい出会いをもとめて

豊岡市立新田小学校 谷 悦子

### 1 はじめに

本校は、児童数185名と但馬では中規模校であり、周りを六方田んぼに囲まれた自然豊かな環境にある。これまで、図書ボランティアの活用や全校朝読書の実施、読書環境の整備など、子どもたちの読書意欲を高めるための様々な取組を行ってきた。今では、子どもたちの学校での読書習慣も徐々に定着してきている。子どもたちのそばにはいつも本があり、朝読書は勿論、少しの空き時間があれば本を取り出して、夢中になって読んでいる姿を見かけるようになった。しかし、学習への活用はできているのか、家庭でも定着しているのか、或いは生涯にわたって自ら読書を楽しむ素地ができているのかと問われれば、まだまだ課題は多いと感じる。読書活動の推進は、学校だけではやはり限界がある。地域や家庭、そして市立図書館等の関係機関の協力を得ながら取り組んでいくことで、子どもたちと本とのつながりを強くし、自ら読書に親しむ子の育成を図っていきたいと考えている。

### 2 具体的な取組

#### (1) 地域・家庭との連携

##### <地域>

##### ○ 図書ボランティアによる活動

本校には、二つの図書ボランティアがある。15年ほど前の発足当初は、地域の方々からなるボランティア「なのはな」一団体であった。その後、保護者を中心としたボランティア「たんぼぼ」が結成され、現在は、二団体（18名）が連携しながら、本校の読書教育推進に協力していただいている。

##### ①読み聞かせ

毎週火曜日の朝学習の時間に、全学級で読み聞かせをしていただいている。発達段階に応じた本であることはいままでのないが、季節や行事にあった本、絵や文章の美しい本、長い間読み継がれている本などを選定のポイントに、子どもたちが心を養うことのできる良い本との出会いを願い、活動されている。読み聞かせ後は、会議室にて学習会をもったり、連絡ノートに本の題名や児童の反応、感想などを記録することで、学校との情報交換を大切にされている。年に数回設けている学校との連絡会では、お互いに意見を出し合うことで、課題の解決や活動内容の改善を図っている。

ただ、数年前まで20名を超えていたメンバーも、現在18名と少なくなっている。そこで、幼稚園の保護者を対象に読み聞かせに興味を持ってもらう取組を行ったり、これまで保護者向けであった募集チラシを地域全戸に配布するなどして、一人でも多くの方に参加してもらえるよう工夫している。

##### ②図書室の環境整備（壁面装飾・本の整理）

図書ボランティアの方に、図書室の壁面装飾や本の整理をしていただいている。しかし、どうしても一部の方に負担がかかってしまうことになり、課題となっている。

##### ○ 地域団体との連携

1・2年生が、「ふるさと紙芝居の会」の皆さんに、手作りである大型紙芝居を見せていただいた。「天人女房」「かわいそうなぞう」など、市内の各地域に残る民話や昔話、戦争を題材にしたもの等で、子どもたちは、食い入るように見ていた。ふるさと教育の一環でもある。

##### ○ 公民館との連携

毎年、公民館文化祭において、ボランティア「なのはな」の皆さんが、おすすめの本の紹介や読み聞かせ、エプロンシアター等の催しをされ、多くの児童が参加し楽しんでいる。

##### ○ 福祉委員会の活動を通して

毎年2学期に、4・5・6年生の福祉委員会のメンバーと地域の高齢者との交流会を行っている。そ

の中で今年は、児童による昔話の読み聞かせを予定している。

### ○ 地域や保護者からの寄贈

学校創立80周年など、学校の大きな行事のときに、地域から書架や本などの寄贈を受け、図書館教育推進に貢献していただいている。また、普段からも、家庭からの本の寄贈が多く、学級文庫が充実している。

<家庭>

### ○ 家庭読書・親子読書の取組

#### ①全校での取組～「ひとりだち」を通して～

PTA活動の一つとして、学期に1回、家庭での生活習慣の見直しと定着を図るため、「ひとりだち」の取組を行っている。その中で、家庭読書・親子読書を奨励することで、家庭での読書習慣の定着につながればと考えている。高学年ではなかなか難しい点もあるが、低学年では、寝る前に読み聞かせをしてもらう児童が増えてきている。

#### ②1年生での取組～「お家の人にお気に入りの本を読んであげよう」～

文字が読めるようになった1年生が、自分のお気に入りの絵本を選んで、今度はお家の人に読んであげるという取組である。それも、お父さん、お母さんの膝の上で読み聞かせをすることで、親子のふれあいを楽しんでもらいたいと考えた。この取組に、多くの子どもたちが「楽しかった。」という感想を持つことができた。また、保護者からも「心がほっこり、温かい時間がもてました。」「子どもものうれしそうな顔。読み聞かせてって大切ですね。」などといった感想が多く寄せられた。子どもたちが幸せな気持ちで本と触れ合えるよう、これからも保護者を巻き込んだ家庭での読書の楽しさを広げていきたいと考える。

## (2) 関係機関との連携

<市教育委員会>

### ○ 「チャレンジ! フィフティ」

各校での読書活動を推進するため、50冊読破した児童について、教育委員会より認定証が交付される。さらに、認定証の交付を受けた児童の実人数が全校児童の50%に達すると、学校賞の表彰がある。本校でも毎年この取組を活用し、読書活動の活性化を図ってきた。今ではこの「チャレンジ! フィフティ」が児童の中に定着しており、毎年学校賞を受けている。また、学年に応じた「豊岡市推薦図書一覧」を児童に配布し、読書の量だけでなく、質の向上にも努めている。

<市立図書館>

### ○ 団体貸し出しの活用(40冊・1ヶ月の貸し出し)

学級文庫の充実を図ると共に、国語教材の関連図書、総合的な学習の時間や社会科の調べ学習などのために、団体貸し出しを受けている。本や資料の提供は、自ら学ぶ意欲や主体的な学習活動を支援することにつながっている。

3年・・・読み物を中心に貸し出しを受け、学級文庫の充実を図っている。

4年・・・国語「一つの花」の学習に関連し、平和学習に関する本や今西祐行さんの本の貸し出しを受けている。

5年・・・総合「お米研究所」～コウノトリと共に生きるために～に関連して、米作りについての資料等の貸し出しを受け、調べ学習に活用している。

6年・・・英語の読み聞かせの本、演劇的手法の学習にヒントになる本、ふるさと学習のジオパークについての資料等の貸し出しを受け、活用している。

### ○ 市立図書館見学(3年)

3年生の校外学習として、市立図書館の見学は毎年の取組として定着している。図書館の利用の仕方やマナーなどを学習したあと、読み聞かせをしていただいた。この図書館見学をきっかけに、自分の図書カードを作るなど、市立図書館を利用する児童が増えている。

### ○ おはなしキャラバン（1・2年生）

市立図書館のボランティアの皆さんに、学年に応じた詩の紹介やストーリーテリング、読み聞かせをしてもらい、本の楽しさを教えていただいた。特に、本なしで話されるストーリーテリングは、子どもたちの想像をかき立てるようで、目を輝かせながら聞いていた。

### ○ 図書ボランティア研修の機会の提供

本校の図書ボランティアさんに、市立図書館主催の読み聞かせ研修会や本の修理講習会などの情報を提供し、研修の機会としてもらっている。

## 3 おわりに

今、子どもたちは、地域や家庭などの協力により、温かい気持ちに包まれながら読書を楽しんでいる。一方、本を通して子どもたちに関わってくださっている多くの方々からも、子どもたちの一生懸命な姿から、やりがいや元気、次への意欲をもらっているという、うれしい言葉を聞くことが多い。しかし、本を通して、人間関係が育まれることを喜ぶ反面、これまで子どもたちの読書環境を支えてくださったボランティアさんの数が年々少なくなっているという現実もある。図書ボランティアの拡大は、家庭読書の定着と共に取り組んでいかなければならない課題である。

また、市立図書館との連携は、子どもたちと多くの本との出会いの場を広げ、読書活動を活性化させる上で、とても大きな役割を果たしている。特に、今強く求められている子どもたちの主体的な学習活動を推進するためには、学習に関連する十分な図書資料の提供は必要不可欠である。到底、今の学校図書館の蔵書だけでは要望に答えられないのが現状であり、これまで以上に市立図書館との連携を進めていく必要があると考える。

学校図書館が地域や家庭、市立図書館と連携しながら、本当に良い本や必要としている本と子どもたちをつなぐ機会と場を提供することは、重要な取組である。このような活動の推進により、本の持つ温かみや力が子どもたちの生きる力を育み、自ら学ぶ意欲やより良い習慣を身につけることにつながっていくのだと考える。